

file025 中国・四国地区

専門の異なる2人の医師が連携し 質の高い透析医療の定着を目指す

地に長時間透析の 普及願い2施設を開業

医療法人讃楡会理事長の秋山賢次氏は、内科医として勤務していた地元香川県の病院の患者からの「透析施設をつくってください」との声から、意を決して2011年9月、観音寺市に「みとよ内科にれクリニック」を開業した（「にれ」はドイツ語「niere」（腎臓）の発音から採用）。「生まれ育った地元の透析事情を良くしたいという思いからだ」と話す。

「大げさな言い方をすると、『しっかり透析』です。体の中の毒素をきれいに抜いて、健常人

に近い生活を送れるレベルの透析を行うため、透析時間はできるだけ長く、また大量置換のオンラインHDFという最先端の技術を取り入れています」。同院の透析時間は5時間が基本で、希望があれば6時間以上の長時間透析にも対応する。

透析への思いが患者にも通じ、クリニックが軌道に乗った2015年、秋山氏は県立中央病院時代の同僚で同郷でもあった泌尿器科医の眞鍋大輔医師に構想を持ちかけ、高松市の一等地に透析専門の「高松にれクリニック」をオープンしないかと働きかけた。

「私の腎臓内科と泌尿器科は

非常に近い部分があって、血尿やタンパク尿で来院される方の中に泌尿器科の病気の方もおられるし、内科系の腎症の方もおられるので、2つの科の組み合わせは非常に理にかなっていません。2人とも香川県出身ですし、眞鍋先生なくてはこの話は成り立たなかったと思います」。

長時間透析には患者の理解が欠かせないといわれるが、「地道な教育に尽きると思います。1時間でも透析時間を伸ばすことで、かゆみが抑えられたり、色素が薄らぐので、特に女性は実感できるようです」と、眞鍋氏はその効果に手応えを感じている。高松の中心街でのオープンについても「仕事を持つ患者さんには治療と両立できる立地です。長時間透析の負担感も軽減できます」。

秋山氏も「最初は抵抗があっても、周りに長時間透析をしている人が多いと、自分も見習おうという意識になり、長時間透析を希望するようになります」と自信をのぞかせる。

また、透析では病診連携の

医療法人讃楡会 概要



みとよ内科にれクリニック

- 所在地 香川県観音寺市本大町 1733-1
- 院長 秋山賢次
- 診療科 内科・腎臓内科・糖尿病内科・人工透析内科（透析ベッド37床）

高松にれクリニック

- 所在地 香川県高松市番町 2-10-6
- 院長 眞鍋大輔
- 診療科 泌尿器科・内科・腎臓内科・糖尿病内科・人工透析（透析ベッド27床）

■診療時間（両クリニック共通）

月水金：8:30～22:30（2クール、夜間透析含む）、
火木土：8:30～16:00（1クール）



高松にれクリニック院長の眞鍋大輔氏は、秋山氏と同じく高松市出身で、日本泌尿器科学会専門医、がん治療認定医

ネットワーク構築がポイントになる。圏域の大病院と連絡を密に取り合うなどしているが、人口約40万人の高松市では、他院の医師と「顔見知りのことも多い」（眞鍋氏）とのこと。地元開業の強みは、こうしたところにも現れてくる。ただし、「糖尿病専門の先生などと連携したクリニックができれば理想ですが、私の親でさえもいまだに大病院志向です。診診連携を根づかせるにはかかりつけ医制度をもう少し浸透させないとうまくいかないでしょう」と秋山氏。これからの課題のようだ。

開業時の理念を伝える 中心スタッフ

スタッフ数は観音寺が19人、高松が8人。特に夜間透析では終業時間も遅いのでスタッフの理解も必要だが、「立ち上げのときに“自分たちのクリニックをつくらう”との同じ思いで多くの人に来てくれました。その理念が受け継がれていて、よいスタッフにも恵まれています」（秋山氏）。



事務・院内スタッフのまとめ役を担っている理事長夫人で事務長の秋山眞智子氏



患者控え室。くつろぎを創出する観葉植物はスタッフが育てている

職場のコミュニケーションを図るため、毎年1回、1泊の職員旅行を行うほか、香川県透析医会が年に2回高松市で開かれる際には、観音寺のスタッフも前泊して出席、高松と合同で慰労会を行い、ほぼ全員が出席するとのこと。

2院を開業したメリットをうかがうと、「観音寺の患者を高松の病院に紹介する場合など、これまで以上に連携しやすくなりました。最も大きなメリットは、眞鍋先生と相談したいことが結構多いこと。これからはもっと幅を広げて連携していければ」と、法人内とはいえ、異なる専門医同士の連携にも新たな意義を見いだしたい考えだ。

社会の流れと医療の変化を 知らせてほしい

医業経営コンサルタントに求めるものをうかがったところ、「役所とのやりとりについてノウハウを教えてもらえると助かります。たとえば、保険制度が変わって請求先との交渉が必要になったりすると結構手間ですし、わからないことが多い。広報や広告も法的にどこまでOKなのかもわかりません」と眞鍋氏。就任間もない院長につきものの悩みだ。

「患者さんが増えたら透析ベッドを増やそうとか、リハビリ



ベッドサイドと中央管理モニターを結ぶオンラインシステムが導入され、安全に透析管理できるようになっている



理事長 秋山 賢次氏

高松市出身。1990年岡山大学医学部医学科卒業、第三内科入局、同大学院入学。1997年9月大学院修了。同年2月三豊総合病院内科医長、2007年10月香川県立中央病院内科部長を経て、2011年9月みとよ内科にれクリニック開設、理事長・院長に就任。2015年11月高松にれクリニック開設。
日本内科学会認定内科医・指導医、日本透析医学会専門医・指導医、日本腎臓学会専門医・指導医、日本糖尿病学会専門医。

テーションやフィットネス機能はどうかなど、新しい発想で事業を始めるにもアンテナがありません。できればそうしたアドバイスや情報が欲しいところです。生きている世界が狭いので、社会全体の流れが知りたいですね。トランプ大統領になってTPPがどうなるとか、景気が上向きになると社会保険料や税率にどう影響するとか、資金の流れがどうか、そういう情報も入ると助かります」と秋山氏。「医療制度や診療報酬が2年おきに変わりますから、せいぜい数

年先しか読めません。その辺をわかりやすく解説していただくと助かります」との秋山氏の言葉に、医業経営コンサルタントへの期待の大きさが感じられた。